

第2回長久手中央2号公園利用促進協議会 議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	第2回長久手中央2号公園利用促進協議会
開催日時	令和3年10月5日(火) 9:30~11:30
開催場所	リニモテラス公益施設 大廊下会議スペース
出席者 (敬称略)	<p>8人中8人出席</p> <p>【出席者】</p> <p>会長 吉村 輝彦 副会長 浦川 正 委員 加藤 正純 委員 名畑 恵 委員 加藤 義郎 委員 田中 康幸 委員 広中 省子 委員 西畑 泉</p> <p>(事務局)</p> <p>くらし文化部次長兼たつせがある課長 磯村 和慶</p> <p>同課主幹 布川 一重 同課課長補佐 名久井 洋一 同係主事 春原 敬亮</p> <p>【欠席者】 なし</p>
傍聴者人数	0人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	<p>1 報告</p> <p>(1) 前回の内容の確認</p> <p>(2) 長久手中央2号公園の再整備工事の進捗状況について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 協議会の役割について</p> <p>(2) エリアのとらえかたについて(現場見学)</p> <p>3 その他</p>
問合せ先	<p>長久手市役所くらし文化部たつせがある課</p> <p>電話：0561-56-0641</p> <p>FAX：0561-63-2100</p>

議事録

会長 あいさつ

事務局 会議成立確認、資料確認

事務局 **【第1回ニュースレター及び工事工程表にて報告】**

事務局 それでは、これ以降の議題の進行につきましては、同協議会設置要綱第7条第1項の規定により、会長が議長を務めていただくことになっています。吉村会長よろしく申し上げます。

会長 それでは議事に従って進めていきます。先ほどニュースレターにより第1回の協議会の振り返りをしましたが、今年度は委員のみなさんの意見を聞きながら、他方では、ここにはいない人、特に実践していく人たちの意見も聞きながら取り込んでいきたいと考えています。今日は意見交換、そして現場も見ながら進めていきます。それでは、まずは協議会の役割について改めて説明をお願いします。

事務局 **【資料1、資料2にて説明】**

会長 ありがとうございます。この段階でみなさんの意見をお聞きします。資料2の公園活用方針概要版に「普段の様子」と「イベント時の様子」として写真が載っています。この協議会で目指していくのは、非日常的な一過性のイベントをどれだけ行うかという視点ではなくて、むしろこの写真の中間ぐらいの日常風景としてどういう使われ方ができたらいいのかを考えることかと思えます。そういう意味でこの場所に必要なことや、注意した方がいいこととか、逆に今まで想像もできなかったことも実はこの場所でやっていくといろんな可能性を開いていくことになります。そういったことを意識していけるといいと思います。いかに集客するかという集客一辺倒のイベントをもってくるという視点ではなく、定期的にとか、あるいは毎日も含めて、ふらっと来てみるとどういった関わりができるのか、ということのを意識していくことが大事なので気にかけておいてほしいです。

委員 リリモテラス公益施設が6月にオープンしましたが、緊急事態宣言と重なり、大規模の集客はご法度で密にならないよう子ども向けのイベントを企画してもアプリなどを活用しての告知も難しい中でスタートしました。公益施設では4つのテーマに関わる市民活動の団体が活動していて、ふらっと来た人がそれに触れて、接点が生まれて、いろんな意味での広がりやつながりができるという

のを思い描いていました。オープニング企画として試みましたが、他の場所で活動している既存の団体が日常的にここを活動拠点にするというのは難しいという状況でした。そこで見えてきた課題は、公益施設を中心に、活動を自分たちで進めていこうというボランティアグループ、サポーターグループをつくっていかねばいけないということがなんとなくはつきりしてきました。既存の団体はここをサテライト的に協力・参加してもらい形にして、会長が言われるように、日常風景を充実させていくことになると、やはり新たな人が公益施設や2号公園ができれば、定期的にできるようにみんなできさやかでもいいのでそういったこと考えていく、そういったグループをつくっていかねば、なかなか広がり生まれ、継続して日常風景を充実させていくのは難しいのではないかと感じました。そのへんをグレードアップ直後にスタートできるように、グレードアップ中にその手立てを考えていくことが必要だと考えました。

会長

ありがとうございます。まさにそこを今からやっていくのが大事だと思っています。協議会は協議会として議論していきながらも、そういう新しい広がり、あるいは今までやってきたけれども必ずしもここに関わっていない人たちや別のところで関わっていた人がこの場所に関わっていこうと思う人たちなどを含めて、つながりを改めて紡ぎ直していく機会にできると思います。協議会の議論は進めながらも、合わせて新たなグループを育てながらやっていくのが大事なポイントだと改めて思います。

委員

資料1をみると社会実験とあって、新しい参加者、新しい主体の発掘も大事かと思っています。資料の中に苦情対応でスケートボードが挙げられているのが気になりました。第1回の協議会では、この公園は都市公園なので条例でルールが決まっている中、その矛盾をどうやって突破していくのかという話もでていました。市内にBMXという自転車競技を真剣にやりたいという若い人たちがいて、とにかく活動したいが、自分たちは世間から白い目で見られていて活動できる場所がなく、すぐに苦情の対象になってしまうという話を聞きました。そういった人たちの声もあるので、いろんな声を拾い集めた中で、新しい公園のローカルルールをいろんな人たちの主体的な参加で決めていけるといいと思います。この場所は、若い人たちが集える場所にぜひしたいと考えています。だから、カチカチのルールではなく、若い人たちが自分たちの活動のルールを自分たちで考えていけるのがいいと思います。

会長

ありがとうございます。スケートボードなどについては、どういうものなのかを理解するところから始める必要があると思います。例えば、太田川駅前のあるイベントでスペースを使ってスケートボードをデモンストレーションでやっ

ていたことがあります。いきなりスペースを貸して何かするという前に、相互理解だとか、こういうものなんだとか、やってみたらどうなのか、ということを考える必要があります。報道で、スケートボードのできる公園で80歳のおじさんがスケートボードを若い子どもたち、5歳くらいの子どもに教えてもらいながらやっている風景というのが紹介されていました。こういう風景を見ると若い子たちが勝手に自由にやっているというイメージとは全然違う風景になってくると思います。このように今までの思い込みを溶かしていくとか、改めて見つめ直していくと全然違ってくることがあるのではないのでしょうか。先ほどの委員の発言にもありましたように、スケートボードやBMXなどもそうだし、火気厳禁の話も含めてそうだと思います。ダメだからダメだというだけでなく、どういう形だったらできるのかというのを頭に置きながら、今日ここで考えることではないかもしれませんが、いずれは話し合っていかなければならないことだと思います。実験的なところでは火気の使用ができるところもあります。何かあったときに苦情をいう先が行政だと厳しくなりますが、そうならない仕組みをみんなでどうつくっていくのか。何かあったらすべて管理者である行政にというのではなく、やりたいことはやる、でも受け止めることも自分たちで受け止める、そこで起きたこと責任も持つ、ということを考えていく必要があると思います。思いとして育てていくには、時間がかかるし、一緒になってやってみたり、理解し合うことなしにはできません。公園のローカルルールをつくっていくプロセスにおいて、いろんな人の思いを聞きながらと同時に、聞くだけではなく、一緒に何かやっていくというのを考えていかなければならないと思います。

委員 受け入れるのにも程度の問題があると思います。今、ルールがあって、これからもいろんなルールを作っていくことになると思います。受け入れていくことには、やはりある程度、程度の問題がある気がします。最終的にどうするんですかといったときに誰かがやらなければいけないと考えなければならないと思います。

会長 その程度感、あいまいさのところをいかに共有できるのか、最初からこれはダメだというのではなくて、どう受け入れていくのか。例えば、イオンに入っているお店、いろんなところと組みながら、販売促進というだけではなくて、こういう世界がある、こういうのって楽しいよねという感じで、単にイベント的集客ではなくて、体験することが、自分の生活をさらに豊かにしていく、そういう視点でいろんなことができるといいと思います。

【現場見学】活動シーンを想像してみる。資料3：ワークシート

委員

現場を見て、下から見たときと上から見たときで違うなと感じました。これまで行ってきたイベントのことなども思い出しながら想像してみました。上から見ると狭く感じました。長久手の顔という謳い文句でこれまででしたが、現場で感じたイメージとしてはイオンの顔だなとも思いました。ぜひみなさんが使える公園になるといいなと思います。私は小学校区でいうと東小学校区に住んでいるのですが、そこに住む人たちがこのリニモテラスで何かイベントがあったときに、車でわざわざ来るのだろうか。たぶん一割も来ないのではないかと思います。じゃあどうすればいいのかというと、それぞれの地域にそれぞれの場所がある、それぞれの場所でイベントをしながら、最終的には1年に1回はここの場所で集まって何かやるという位置付けにすればいいのではないのでしょうか。この公園の半径500メートル以内に住んでいる人やイオンのお客さん、リニモで来られたお客さんなどがターゲットとして考えられます。日常のことだとそういう人たちが主にターゲットとなるととらえ、長久手市民すべてをターゲットとする必要はないと思います。ただし、古戦場公園がリニューアル整備されれば話は別かと思います。

委員

狭い、コンパクトな広場と言われましたが、そのコンパクトさが日常ユースにプラスになるような使い方ができないかと思います。私が20年くらい前に、日進おやこ劇場で活動していたときに、日進市民会館の前の広いスペースを使って、月に1回、フリーマーケットをやっていて、出店者もお客さんも楽しんで、賑わっていました。リサイクルマーケットとか、遊ばなくなったおもちゃとか互いに物々交換とか、環境面も考えながら月に1回とか定期的にしていれば、こういうことが自由にできるのだったら、自分たちでもやってみようかというグループも新たに出来てくるのではないのでしょうか。車で来るのは大変かもしれませんが、歩いてとか自転車でとか、そのくらいの規模感でできるのではないのでしょうか。あと、公園と公益施設の間の緑道の植栽ですが、公益施設の玄関のところの一部だけでも取ることができると公園に新たに整備される「つながるテラス」からダイレクトにつながるのではないかと思います。

委員

どういうところを目指していくのかということを考えながら現場を見てきました。やはり親が居心地が良かったり、気候的に気持ちのいいところであれば、そんなに物がなくても、行きたい、集まりたいと思うし、ちょっとしたことをやってるだけでも満足できる場所になると思います。この公園は、日差しが強かったり、風が強かったりするようなので、居心地の良さは確保したいです。フリーマーケットの話がありましたが、趣味で作られた物や不用になった物を気軽に身近に出せる場があるといいと思います。日常的な利用となると昼間にいる主婦層や親子連れ、おじいちゃん、おばあちゃんが和めるところがあるといいと思います。

委員

ターゲットの話がありましたが、イオンモールを利用される方の多くは立体駐車場を使われるので、本棟側への来場が大半で、どうやって駅前棟側の方に人を呼び込むかというのはひとつ課題になっています。リニモの駅があるので学生たちが通学で駅前のバスロータリーを使っていますが、そこから先は現状では通過しているだけになっています。学生さんやイオンを利用している子育て世代が日常的に使える場所がいいなというのは改めて思いました。上から見たり下から見たりしながら、もう一回公園の活性化につなげていきたいと思っています。

委員

現場を見るといろんなこと想像できていいですね。グレードアップでいいと思ったのは、3方向から近づきやすくなっていること、「つながるテラス」とリニモテラス公益施設、パーゴラによって、境界が少しアクセスしやすくなっているのが改めて見てといいと思った点です。グレードアップが終わってからもうちょっと先に社会実験としてやってみたいと思ったのは、せっかくちょっとつながり始めているので、内と外をあいまいにするような社会実験。目的としてイオンモールに来ているのだけでもパーゴラに顔が向く、駅前広場ロータリーに来た人がちょっとしたきっかけで、「リニモすてっぷ」から公園につながる。リニモテラス公益施設と緑道がつながっていく。何かそういう仕掛けをあえて今のうちに社会実験として仕掛けていけるといいと思います。先ほど意見のあった植栽帯が隔てをつくっているので植栽を取るというのも大賛成。そうすれば、内と外がつながると豊かになります。あと日差しが気になります。日陰がないし、ステージやバス停の屋根も透過性があって涼しくない。ただし、什器とかをつかって季節によって可変性のある空間をつくるという可能性もやっぱりあります。やりたいと思ったのは広場の真ん中の部分にパラソルを立てるだけで何にもしない、そうしたら人は来るのかどうか、涼んでくれるのかどうか、「何が」とあると滞留するようになるのか、日常の中に過ごしてくれるようになるのか、そんな空間を見たいと思います。現場で見て不思議だったのは、駅前広場のベンチでずっと本を読んでいる人が（日陰もないのに）居たということ。バス待ちでどうしても居なければいけない人もいるのだから、居心地のいい空間にしたいですね。

委員

ベルギーのブリュッセルの市庁舎の前にグランプラスという広場があってフラワーカーペットで有名で毎年催されています。以前私が行ったときに、広場に一面砂を入れてビーチバレーの大会が行われていました。イメージというか発想が違って、きれいに公園を使っているというイメージとかけ離れたことをやっていました。だから、この公園でも、ある程度発想を転換して、今まで公園でやっていたことを考えてしまうと限界があるので、全く違う発想もでき

るんじゃないのか、そう考えると、社会実験ということが重要になってきます。使いたい人が主体的に使うのか、お客さんに来てもらうということでも違ってきます。自分たちの活動の場、練習の場としてとして使ってもらうなど、今までと違う変わった発想を持つと新たな展開もできると思います。

委員

普段使いという言葉で現場を見てきました。今は工事中ですが、噴水があると小さいお子さんのいる家族連れの方がお見えになります。杵ヶ池公園など水辺のある公園というのは人が集まってきます。そういう場が大事で、親子連れは、何かイベントがなくても集まっています。今改めて見るとやはり日差しが強いので、再整備工事ではパーゴラなどで日除けを考えているところです。グレードアップ後に、家族連れが集えるような公園になるといいと思います。前半部分でスケボーやBMXの話もありましたが、いろんな使い道がある中で、いろんな人がいかに共存できるか、共生できるかが大事でローカルルールということも考えていかなければならない公園だと思います。あと、古戦場公園についてリニューアルの話がありましたが、令和5年度から新しいガイダンス施設の建築が始まりまして、令和7年度にはオープンの予定です。そういったところとも一体となって賑わいが創出できれば、この2号公園の価値も上がってくると思います。

会長

ありがとうございました。2号公園だけでなく、緑道の部分とか、駅前広場など、いろんな境界を越えて何かできるといいと改めて思いました。例えば、バス待ちの人向けに、外にあの位置にお店を出しておくとか、きっと待ち時間の間に建物の中には入らなくても、その場でだったら飲み物とか買ってくれるんじゃないか。せっかくそれぞれがもったいない時間を過ごしているとしたら、その人のその隙間をどうやっとうまくつなげられるといろんな可能性が広がると思います。音楽の流しなどはある程度時間を決めてできるのなら、ステージで練習だけど、常に何かやっている、勝手にではなくて実は計画されてやっている、そういのもありで、クラシック系だったら問題ないし、ストリートピアノとか雰囲気合う範囲であればあってもいいのではないのでしょうか。いろんなことができるのではないのでしょうか。ステージ使ってどんなことができるのか、この会議をステージの上で公開でやってみたりとか、イベントとミックスして、ゲスト呼んでとか、映画の上映とか、できるだけローカルにこだわった映画、社会的なテーマの映画の上映、ここだけにこだわりながら、夏は朝はラジオ体操やヨガやってもいい、緑として芝生的なものもあったら見た目もいいし、可変的なものというのが今回のキーワードですが、イスなどもどう考えて置くのか、可変性のある屋根とか、実験的に公園を覆うことなんかできないのかなど。マルシェやマーケットはいろんな可能性があると思いますが、ディレクションというか、テーマを明確にするのがいいのではないのでしょうか、何で

もありではなく、ここでやるのはこういう感じというのがあっていいと思います。テントもアウトドア系がいいと思いますが、マルシェのときには、木質、木で作った屋台とかを緑道に並べてみたりとか、リニモテラス公益施設にマッチングして木質的な流れの中でつないでいくとか、ローカルルールの話とは別に、こういう取組全体としてのコンセプト的なものを共有できればできることがいろいろとあると思います。現場で見ていると、ベビーカーを押しているお母さんたちが通っているので、そういう人たちがちょっと立ち寄りの、お店に入って何か飲むのは大変でも、モバイル的なものの中で、出店とかそういうのもできると思います。何でもありという意味ではなく、この場所ならではの方向性、雰囲気を生かしつつ、ディレクショナルなものがあった上で、うまいことやっていく、その中にスケートボードやBMXも入ってくるのではないのでしょうか。共生の話も出ていましたが、自分のやりたいことをやる時には、他の人のやりたいことことも尊重するのが共生ですね。自分がやるから他はダメというのではなく、そこは大事にしなければならない。同時に単に利用するだけでなく、ここを一緒に作っていくというスタンスで、仲間たちを横に広げていくことが大事だと思います。苦情があった場合に管理者側から、これはダメではなくて、仲間との関係性の中でルールを設けて、ここでやるときはこういうことをみんながこのルールを守ってやっていくのが大事だというものをつくっていくのがいいと思います。

委員

コンセプトの話が出ましたが、前回、話題提供で紹介した「とよしば」では木のテントを運営事業者がオリジナルで簡単に自分たちでできるものをということで作っていました。それがマルシェとしていい風景をつくっていて、その後、マルシェを企画したいという人が現れて、やさしいマルシェという企画が生まれました。こういう人の振る舞い、素敵な風景みたいなものが次にどんどんつながっていく事例があると思います。すでに、この公園でもマルシェなど素敵な風景がつくられているので、その効果、どういうところがポイントだったのかを検証するのが協議会の役割としてあると思います。人の関わり方は、過ごす、ファンをつくる、その後、活動に関わる、管理運営に関わる、というライト級からヘビー級まであります。ライト級の単純に過ごすということは、単純に過ごしやすい空間をつくることから始まると思います。日常的に居心地のいい空間をつくる、ちょっと実験してみるというのは、ここでも考えられるのではないのでしょうか。

会長

では、事務局にてまとめと振り返りをお願いします。

事務局

様々なご意見・アイデアありがとうございました。実際、ご覧いただきましたようにこの公園は決して広くはありません。その中で、日常的にいろんな人が

関わられる公園にしていくことが求められています。先ほど工事の現場をご覧いただきましたが、現在、長久手中央2号公園においては、グレードアップ工事としていわゆるハード整備を進めているところです。日常的に居心地の良い素敵な風景をつくっていくためには、人の動き、活動そのものが大事になってきます。今後の展開としては、協議会のみなさん含め様々な方に声かけしながら、公園の活用の発想を変えていくために、意外性のあること、当たり前のことも含めて、社会実験を実施したいと考えています。本日の協議会でもヒントとなるキーワードがたくさん出てきました。公園以外の場所を使いながら社会実験、実験的な試みをしていきたいと思えます。そこで、社会実験に向けての気をつけるポイント、リクエストが何かありませんか。

会長

ポイントとしては、何がダメから始まるのではなく、何を大事にしていきたいのかというのがあると思えます。普段使いとか、居心地がいいとか、何かやるときにそこにたまたまベンチにいた人たちがちょっと居心地が悪くなって出て行かざるをえないような雰囲気にはならないようにしなければいけないし、逆にどうやったら共生・共存できるようになるかを考えながらやってみるとか、単に貸しスペース的なイメージでの社会実験というよりはではなく、ここでの使い方が、これからの使い方にも関わってくるような、そういう想いとか、ここにある活用方針を共有・共感できることが大事で、その上でどう折り合うのか、もう一段上がって創造的にできるのかを徐々に確認していくことが必要だと思えます。これは、たつせがある課だけでは全部できないと思うので、この協議会の下に一緒に考えていくチームを作って、行政や実際に使いたい人とかをつないでアイデアを共有しながら、やっていけるのといいのではないかと思えます。

委員

意識的に仕掛けないと今のうちだと難しいと思えます。共感できるコンセプトは何になるのかわかりませんが。豊田市の藤岡交流館がオープンしたときに、オープニングパーティをみんなで作るときに、そのキーワードを「日常のプレミアム」として、これまでの活動で1回もやったことのないようなことを持ち込んでくださいというのをテーマにしたところ、ステップアップして取り組むことができました。錦二丁目ではSDGSにつながるテーマで出店してというのを宿題にしたところ、食べられる器で提供するなど「今までやったことがないことにチャレンジして楽しかった」という感想を後で聞いています。話題性みたいなものもちょっとしたきっかけになるキーワードがあると、新しいことをするのはみんな楽しいことなんだと実感しています。

会長

キーワードをつくって挑戦してみるのもいいかもしれないですね。チャレンジする機会をつくるのはおもしろいと思えます。例えば、カレーをキーワードに

今までにない新しいメニューを作っていくとか。そのキーワードが長久手らしさを表すことになると思います。その意味では新しくというか、育んでいくこと、うまくいくところもあるし、やってみないとわからないこともあるし、そういう機会をつくっていくと、いろんな人たちが次につなげていけるのではないのでしょうか。他の地域の様々な取組を参考にしながら、単にそれを移植するのではなく、そこを気にかけてながら、自分たちの活動にどうつなげていくのかを意識してくと今までと違ったステップアップができるのではないのでしょうか。既存の組織ではできないところで自分たちの気づきにつながっていくといいと思います。

事務局

現在進めているグレードアップ工事の工期は、来年3月11日までです。次回には、オープニングに向けた企画を考えていきたいです。この公園にどういうキーワード、特色を持たせていくのかを考えるために、社会実験では、滞留を促すようなテーブルやイスを緑道に置いてみたり、飲食物の提供なども組み合わせ実施します。実際にどういった人がどういう風に滞留したのかを協議会にフィードバックさせていただきます。実際にやってみるということを大事に社会実験として、小さなイベントを仕掛けていきます。発想を変える、テーマ性をもつ、そういったことを意識しながら進めていきたいと思います。

次回の協議会の開催を、12月14日（火）の9時30分からに決定し、終了。